

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム ひまわりⅡ	評価実施年月日	平成20年5月1日
評価実施構成員氏名	立藏 光子・林 美悟樹・山崎 浩二・上田 瞳・堤田 容子・天方 智子・堤 幸・堀 順子		
記録者氏名	林 美悟樹	記録年月日	平成20年5月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ひまわりⅡの独自の理念を作り上げて玄関に掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	会議や申し送り、日々の会話の中で話し合いながら、又全てのスタッフが理念カードを携帯し、理念を共有して実践に向けて日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ひまわりⅡの独自の理念を作って、家族や地域の人々に理解してもらえるよう玄関に掲げている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ごみ捨ての時や、出勤、散歩の時など隣近所の人と気軽に声をかけあったりしている。又今年は班長なので「いつでも寄ってください」などと声をかけて、日常的な付き合いができるようになってきている。	○ これからもっと近所の人に気軽に立ち寄ってもらえるような、ホームにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議により少しずつ交流する事には努めているが、まだ地域の一人として地域活動に参加してはいない。	○ これから少しずつ地域の一人として地元の人々と交流することに努めていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近所の方も少しずつ興味を持ってくださり、「今度中を見に行ってもいいですか？」などと言われたりしているが、まだ地域の高齢者の暮らしに役立つ事に取り組んでいるとは言えない。	○ これからホームの中で話し合い、地域の高齢者の暮らしに役立つ事を見つけ取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価の評価を活かして指摘された部分は会議などによって、これからどのように改善していくかを話し合い、少しずつでも改善に取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で昨年の外部評価の内容や要改善となった所に対しての取り組み状況などを報告して話し合いを行っている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議は行っているが、それ以外にはまだ、行き来する機会をつくれていない。</p>	<p>○ これから少しずつでも市町村担当者と色々な形で行き来する機会を作り、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度は協力医療機関のソーシャルワーカーや区役所の方から話を聞き必要な人には活用できるようにしている。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待は行われていないが、その可能性があることは会議などで話し合い、見過ごさないように注意をし防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の契約を結ぶ時、利用者や家族等とよく話し合い、不安や疑問などに十分説明を行い理解、納得をして頂いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項説明書の中に記載し口頭でも説明し、又意見箱を設置して意見や苦情を言いやすいように努力している。日々の生活の中でいつもと様子が違う場合、よく話を聞き意見などを速やかにスタッフ全員で話し合いサービス改善につなげている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月ホーム便りに個々の最近の情報などを書いて、又金銭管理の事についても毎月送っている。健康状態についても家族に報告、相談して話し合い進めている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項説明書の中に記載し口頭でも説明し、又公的窓口を紹介するポスターを貼り、外部者に伝える機会を設けている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の生活の中で職員の意見や提案が出た場合、会議や連絡ノートにより反映させて、サービス向上にむけて進めている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況、職員の意見などにより、今まで勤務の調整をして現在の勤務体制になっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>運営者は職員の悩みなどを日々の生活の中で聞き、助言や励ましなどにより離職を必要最小限に抑える努力をして、代わる場合は早く利用者と馴染みの関係になれるよう努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員に対し研修などをすすめ、希望者には受ける機会を確保して、段階に応じて育成するよう進めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	まだ地域の同業者と交流する機会を持っているとは言えない。	○ これから管理者や職員が同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は職員の日々の様子を見て変化がある場合、話を聞き助言や励ましなどにより、ストレスを軽減するために努力している。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は職員の個々の能力や努力を把握し、役割や責任を持たせ各自が向上心を持って働けるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学の時には本人とよく話し合い、困っている事や不安な事を納得して頂いた上で契約、入居して頂いている。入居した後も本人自身からよく聞く機会を作る努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学の時に家族とよく話し合い、困っている事や不安な事、求めている事を納得して頂いた上で契約して頂いているので、無理に入居は強要しないし、よく聞く機会を作る努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時にまずいう事は「グループホームといっても、雰囲気などが全然違うので、たくさん見て家族の方や本人が一番気に入った所に決めるのがいいですよ」などと助言しているし、他のサービスのほうが合いそうなら、そちらを進めるような対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の前に本人とよく話し合い、不安になっている事などを聞き納得していただたく。その人の性格などによって対応の仕方を変えて、病院、家族のかたなどと相談しながら馴染みの関係が早く作れるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「職員は家政婦ではない」という事は職員によく言っていて、まず入居者と一緒に行くということを大切に、楽しい時は一緒に笑い合う、しかし間違っている事をした時は傷つかないようにそれとなく正す。大きな家族のような感覚で支えあう関係を築くように努力している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やお便り、電話などで入居者の日々の様子や、職員の思いをできるだけ伝えるようにし、情報を共有しながら一緒に支えていける関係作りに努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまで本人と家族との関係を理解した上で、より良い関係が築いていけるように考え支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人との関係や、お墓参りに行くなど、これまで大切にしてきたものに対して、途切れないよう又本人が安心するよう支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、無理をしている部分などを見極め、利用者同士が良い関係になるように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、家族の悩みなどに相談にのり、また病院に行ったりと関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めているが、どうしても難しい場合は本人が納得できるように検討し行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	病院からの情報、ソーシャルワーカーからの情報、家族からの情報、また本人からの情報などにより、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	例えば最近体重が増え気味の方はなるべく体を動かすように対応するなど一人ひとりの一日の過ごし方などを総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員と共に本人や家族と話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	対応できない変化が生じた場合は介護支援専門員と共に本人や家族と話し合い、本人の希望に合った計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気づき、工夫を介護記録や連絡ノートなどで情報を共有して実践などに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況に応じて要望に応えられるよう柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に民生委員の方に参加していただき少しずつ地域との交流が進んでいるが、まだ地域資源との協働とまではいかない。	○	これから民生委員をはじめ、警察・消防・教育関係等ともっと交流し協力しあいながら支援していきたい、
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の意向や必要性に応じて、協力医療機関のソーシャルワーカーと連絡をとり、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域生活支援センターと総合的かつ長期的なケアマネジメント等について協働しているとはいえない。	○	今後地域包括支援センターと総合的かつちょうきてきなケアマネジメント等について協働していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>入居者の方が信頼をしている、又家族の方も希望している協力医療機関の院長に月に1度受診して、月に2度訪問看護に来て頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関と連絡を密に取り利用者の状態によって相談したり治療を受けられるように支援している。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関の訪問看護の方に月に二回来て頂き利用者の状態を相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院した時に少しでも安心できるよう、またできるだけ早期に退院できるように医師や看護師との連絡をこまめにして、情報交換や相談に努めている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合は協力医療機関と連絡しあい、家族と相談して終末期のあり方についての方向性を決め全員で方針を共有している。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期の利用者に対して、出来ることを見極め協力医療機関と連絡を密にとりチームとしての支援に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人の希望を聞き、家族やソーシャルワーカーと十分に話し合いを行い、本人にとって最善の方向にすすめられるように、またダメージを最小限におさえるように努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者それぞれの性格などを考慮して、誇りやプライバシーを損ねるような対応はしないよにつとめているし、職員がそのような対応をした場合は今後気をつけるように職員全員に伝え支援している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が迷い混乱した場合、入居者に合わせた説明をゆっくりして納得して頂くよう支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にし入居者が出来ることはやって頂き出来ない事はさりげなく支援する。一日の流れにみんな役割をあたえ、巻き込むようにして生きがいや喜びを感じられるように支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりの希望により理容、美容に行きたい方は行って頂き、職員に切ってもらいたい方は無償で切ってあげるなどの支援をしている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員がその人に合わせて一緒に盛り付けや片付けなどを行いまた食事もなるべく一緒にとるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体重の増減を考慮して飲み物やおやつを日常的に楽しめるようにしている。タバコもその人の状態に合わせて、決められた場所で職員が付き添いで楽しめるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その人によって夜のみオムツとか、夜のみパットにして頂きトイレの声かけや誘導をこまめにするなど、一人ひとりの状況に応じてなるべく自分でトイレにて排泄できるよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	月曜と木曜と決めて入浴して頂いているが、入居者の希望から午前中に全員入浴をすませ午後からゆっくりしたいということだったので、午前中に入浴して頂いてる。また汗をかいたときや本人が希望されるときはシャワー浴や清拭などその都度対応している。	○	これからなるべくもっと一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転しそうな方に対しては日中なるべく寝ないように対応して、混乱する方に対しては説明し安心して頂き、なるべく眠剤を使わないようにし、それでも眠れない方に対しては頓服薬を飲んで頂くなどその状況に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	人のためになる事をしたいと思っている方に対しては一緒にごみ集めや拭き掃除、モップがけなどをして頂き、散歩に行きたい方に対してはなるべく散歩に行く、また折り鶴をおって色々な人にあげたりと、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり一緒に買い物に行ってお金を使えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日にはなるべく全員が散歩など戸外に出かけられるように支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お墓参りに行きたいと言う希望があり、毎年職員と個別に行っている。また順番に温泉に行きたいと言う方に対して個別に行ったりもしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙を書いたらその都度出してあげたりと支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ずっと疎遠だった家族の方が来たり、家族の方と外泊したりと気軽に訪問でき居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていないし、しないで対応できるようにと職員全員で話し合い統一してケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵はついていない、又玄関は夜間のみで日中は鍵をかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は職員同士で声をかけあいながら、また不穏な方に対してはフロアなど目が届く所にいてもらうよう努力して、夜間もこまめに巡回するなど、利用者の所在や様子を把握するように努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	縫い物や編み物が得意な方に対しては見守りし、はさみが必要な時は一緒に行うなど一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒した方に対してこれからどのように対応したらいいか会議で話し合ったり、避難訓練をしてもしもの時にそなえたりと、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを作成したり、救急の講習会を開いたり、職員に緊急時の対応を熟知してもらえるように努力している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練をしたり緊急時マニュアルを作成したりしているが、まだ地域の人々の協力を得られるように働きかけているとはいえない。	○	今後、災害時に地域の人々の協力を得られるよう働きかけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居の時の説明にずっと付き添う事はできないので、転倒や怪我など一人ひとりに起こりえるリスクについて説明している。またそうなった時には、すぐに家族に報告して今後の対応策などを話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日バイタルを測定し一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた時にはすぐ受診して家族にその都度報告し対応している。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は使用している薬の事がある程度理解し、また分からない事は協力医療機関に相談するなど服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、体を動かす事やマッサージをする事、処方されている下剤を服用して頂くなど予防と対応のために取り組んでいる。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後一人ひとりに付き添い見守りにて口腔ケアを行い口腔内の清潔保持のため支援している。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>時々献立表を保健センターに見て頂き、量やバランスが良いかどうかを聞き、一人ひとりの状態に応じて支援している。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>	<p>感染症対策マニュアルを作成し、また日々の手洗いうがいなど清潔を保持し感染症予防に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	常に清潔を保つように心がけ、また夕食後は台フキンなどを消毒するなど衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りなどごみや落ち葉などを拾い、又玄関前には鉢に花を植えて置くなど、家族や近隣の人等に親しみやすく安心して出入りが出来るよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間はカーテンを二重にしてその時によって光の調整をしている。浴室やトイレ、各入居者の居室などにはプレートをつけて利用者が迷わないよう、また全体に明るくなるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一階には廊下に藤のソファを置き、二階廊下にはソファやテーブルと椅子を置き、ひとりになれたり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にあるものは全て以前から使い慣れたものや、一緒に買いに行きながら自ら選んだものを使っていて、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭いが気になる居室は少し換気したりしている。又換気扇は常に回し、温度調整はこまめに行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

まず目標は自分が高齢者になった時入りたいなと思えるホームにすることです。そして、一人ひとりの笑顔を大切に、みんなで毎日楽しく過ごせるよう、またその人の能力に応じて役割をつくって、生きがいを少しでも感じて頂く本当の家族のようにホームの中で過ごしていけるよう、これからも努力していきたいと思えます。